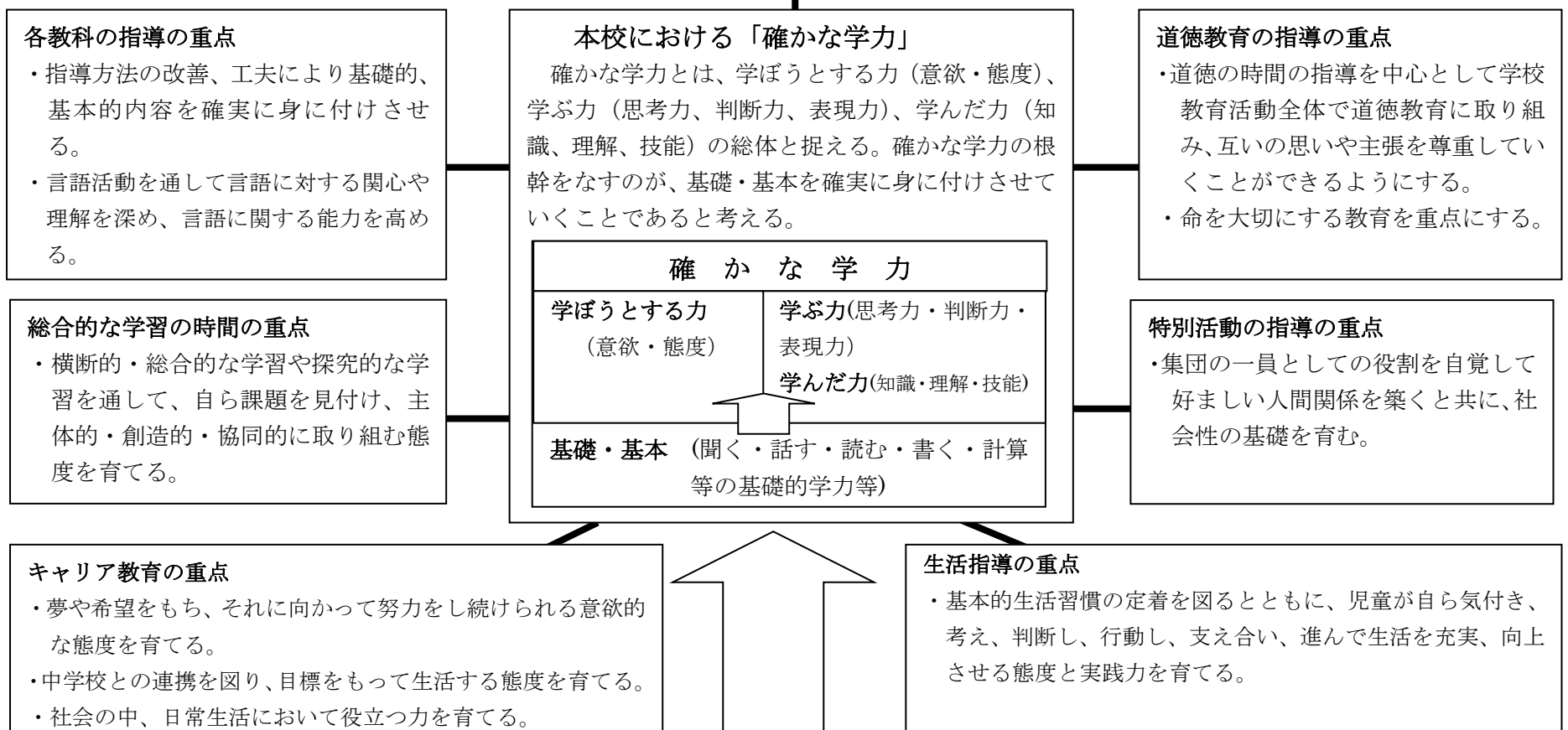


## 令和元年度 学力向上を図るための全体計画

<p><b>【都の教育目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間</li> <li>社会の一員として、社会に貢献しようとする人間</li> <li>自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間</li> </ul> <p><b>【区の教育分野目標】</b></p> <p>夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成</p> <p>取組の視点1 教育の質の向上 取組の視点2 家庭や地域と連携した教育の推進 取組の視点3 支援が必要な子どもたちへの取組の充実</p>	<p><b>《学校の教育目標》</b></p> <p>本校の教育は、日本国憲法・教育基本法・児童の権利に関する条約の理念と人権尊重の精神を基調に、これからの社会に主体的に対応し、国際的視野に立ってすすんで協調することのできる、心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成をめざす。このことを具現化するために、次の目標を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ たのしく学ぶ子</li> <li>○ はつらつと活動する子</li> <li>○ とともに歩む子</li> </ul>	<p><b>【学校や地域の実態】</b></p> <p><b>【保護者の願い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力の向上</li> <li>子供が楽しく安心して通える学校</li> </ul> <p><b>【地域の願い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校への期待や関心が高い。地域に開かれた学校の推進</li> </ul> <p><b>【教師の願い】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生命尊重 人権尊重</li> <li>基礎基本の学力の充実</li> <li>個性、能力の伸長</li> </ul>
---	--	--

<p><b>【学校経営計画（学力向上にかかわる要点）】</b></p> <p>中期経営目標 ○基礎・基本を大切にし、児童が主体的に学ぶ授業を行い、思考力・判断力・表現力を身に付けた児童を育成する</p> <p>短期経営目標 ・問題解決的な学習を充実させ、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「書くこと」の領域で、身に付けさせる資質・能力を育成する</li> <li>・読書活動を推進し、読書習慣を確立する</li> </ul>	
---	--



本校の改善策		
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決、体験活動を取り入れた学習の重視。</li> <li>課題解決、習熟度別学習を取り入れたティームティーチング、少人数指導の推進。</li> <li>自力解決学習と学習感想の重視。</li> <li>各教科における言語活動の重視。</li> <li>東京ミニマムの活用。</li> <li>東京ベーシックドリルの活用。</li> <li>ICT機器の活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年での国語「書くこと」における研究授業の確保。</li> <li>朝読書、保護者・教員による読み聞かせ、お話の会によるストーリーテリング、図書館員によるブックトーク等の多様な読書活動の実践。</li> <li>週に一度、朝15分間の基礎学習の実践。</li> <li>学期1回のいじめなくそうアンケートの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年7回の授業研究を通しての授業力の向上。</li> <li>キャリアプラン等に基づく自主的・自発的研修の活性化。</li> <li>教材研究の重視。</li> <li>長期休業中に2回の職員研修の実施。</li> <li>会議の効率化、金曜日に15分間のOJT実施。</li> <li>副校長による教職員全体の服務研修。</li> </ul>
評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のよさを見付け、よさを伸ばすことで他の力を伸ばす評価計画、評価規準、評価基準の作成等による指導と評価の一体化。</li> <li>自己評価、相互評価の活用。</li> <li>積極的な教職員同士の情報交換。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立（朝食・睡眠等）。</li> <li>「早寝・早起き・朝ごはん」の運動の推進。</li> <li>保護者による朝の読み聞かせ。</li> <li>家庭学習や宿題等の工夫。</li> <li>地域の教育力の活用。（地域未来塾）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8つの研究部会での小中一貫教育の研究実践。</li> <li>課題改善カリキュラムの作成。</li> <li>校区别協議会での協議内容を授業改善に活用。</li> <li>中学校教諭による6年生への訪問授業の取組。</li> <li>中学校の部活動見学（6年生）。</li> <li>校内での挨拶運動、中学校との挨拶運動。</li> <li>児童会生徒会交流（挨拶・サミット）</li> </ul>
授業改善策の検証方法		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京都や国による学力調査の結果と授業改善推進プランとのPDCAサイクルによる検証</li> <li>○小中一貫教育グループによる課題改善カリキュラムと校区别協議会でのPDCAサイクルによる検証</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベーシックドリルによる検証</li> <li>○学校評価による検証</li> </ul>